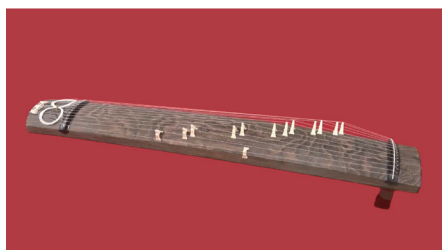


箏のお手入れ・保管方法について



本資料では、文化庁 邦楽普及拡大推進事業で貸与している箏を専用ケースから取り出して調弦できるまで、演奏終了後、箏を保管するまでのお手入れ・保管方法を解説します。正しいお手入れ・保管方法を身につけ、大切な楽器と長く付き合しましょう！

箏について学ぼう

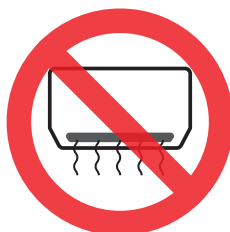
箏は、自然の材料を使って製造されている、非常にデリケートな楽器です。ぶつけたり、落としたりすると、破損してしまいます。取り扱いには十分に気をつけ、正しいお手入れ・保管方法を身につけましょう。

湿気(水分)には要注意!



箏が濡れてしまったら、乾いた布で水分を拭き取り、陰干しをして乾かしてから保管してください。

空調*が直接 当たる場所はNG!



寒暖差の激しい場所や湿度が高すぎたり、乾燥しすぎたりした環境は、箏にとっては大敵です。空調が直接箏に当たると、乾燥して傷んでしまうので、避けましょう。

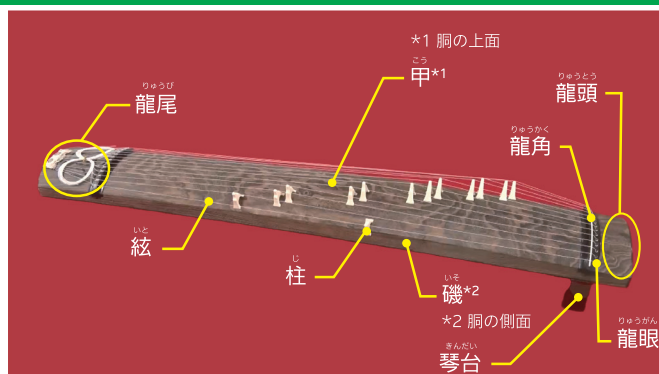
*空調には、エアコンや扇風機、ストーブなどが含まれます。

直射日光が 当たる場所はNG!



空調と同じように、太陽の光が直接箏に当たると、乾燥して傷んでしまいます。直射日光が当たる場所での保管は避けましょう。

箏の各部位の名称

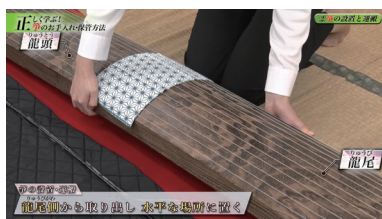


箏のお手入れ・保管方法

箏の設置と運搬



1. 箏を専用ケースから取り出す時は、水平な場所で行ってください。
箏は、大きな楽器です。
運搬する時は、周りの人や物にぶつからないよう、注意しましょう。
箏を置く時は、専用ケースの中央部を持ち、保管している時の下側（龍頭部）が、自分から見て右側に来るようにしてください。



2. 箏を専用ケースから取り出します。
専用ケースを開けたら、磯を両手でしっかり持ち、龍尾（左）側から、ゆっくりと取り出してください。
箏を置く時は、龍頭側から傷がつかないようにゆっくりと置きます。



3. 甲と絃の間に挟んでいる手ぬぐいを外します。
保護用の手ぬぐいを外す時は、手ぬぐいを龍頭（右）側にずらしてから、手前に引くことで、箏を傷つけずに、手ぬぐいを外すことができます。



4. 甲に柱（じ）を立てていきます。
柱は自身から見て遠い絃から順に立てていきます。
柱を立てる時には、絃を指一本分ほど柱より高く持ち上げ、絃を柱の溝にかけます。
絃の持ち上げる高さが不十分だと、絃で指を挟んで怪我をしたり、柱が倒れて甲を破損させる可能性があるため、注意してください。



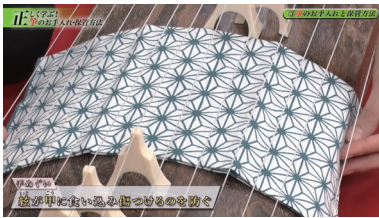
5. 琴台の上に、箏を置きます。
柱を立て終えたら、龍頭部分を両手で持ち上げ、右手で琴台を持ち、龍眼の下に置きます。
琴台を使用することで、音が響くようになります。

以上で、箏を調弦できる状態になりました。
※調弦の方法は、講師の先生の指示に従ってください。

箏のお手入れと保管方法



1. 箏を、琴台から下ろします。
両手で龍頭を持ち上げ、右手で琴台を外します。
琴台を外したら、両手でゆっくりと箏を下ろします。



2. 絃と甲の間に、保護用の手ぬぐいを挟みます。

柱をずらして、甲に手ぬぐいを挟むスペースを作ります。

開けたスペースに、手前から奥に向けて、滑らせるように手ぬぐいを入れます。

手ぬぐいを挟むことで、甲に絃が食い込むことを防ぎ、甲を傷つけずに保管できます。



3. 絃から柱を外します。

手ぬぐいを挟んだら、絃から柱を一つずつ外していきます。

柱の位置をずらしたり、外したりする時は、絃を指一本分ほど柱より高く持ち上げましょう。

絃を持ち上げる高さが不十分だと、絃で指を挟んで怪我をしたり、柱が倒れて甲を破損させる可能性があるなので、注意してください。



4. 乾いた手ぬぐいで、甲についた手垢や指紋などの汚れを拭き取ります。

手垢や指紋などの汚れは、優しく撫でるように拭くだけで落とすことができます。

また、手ぬぐいを用いることで、箏の表面を傷つけることなく、拭くことができます。

箏を拭く時にタオルを使用すると、タオルの繊維が箏に引っ掛かり、傷ついてしまいます。

そのため、タオルではなく手ぬぐいを使用しましょう。

また、箏を水に濡らした手ぬぐいで拭くことや、アルコールを使用して拭くことは、箏の破損に繋がるので、絶対にやめてください。



5. 箏を収納するために専用ケースを用意します。

専用ケースの名札入れが付いている方が、龍尾側になります。

専用ケースの向きを間違えると、箏を立て掛けた時に向きが変わってしまうので、注意しましょう。

専用ケースを準備したら、中に何も入っていないことを確認してください。



6. 専用ケースに箏を収納します。

専用ケースに収納する時は、磯を両手でしっかり持ち、龍頭(右)側から、ゆっくりと収納してください。

箏は、大きな楽器なので、持ち上げたりする際には、周囲の人や物に当たらないように注意しましょう。

専用ケース内には、付属品は入れずに、箏のみを収納してください。

柱などの付属品は、別の袋などに入れて保管しましょう。



7. ケースに入れたまま、保管場所へ運搬します。

箏を運搬する時に、破損した事例が多いため、特に注意を払ってください。

天井や壁のみならず、階段を使用する場合は、足元にも気をつけましょう。

保管の時には、名札入れがついている龍尾側を上にして、底面側を壁に向けて立てかけてください。

複数台重ねて立てかける場合は2台程度にして、崩れないよう配慮してください。

以上が、演奏終了後の箏を保管するまでの流れとなります。

箏のお手入れ・保管方法に関する注意点



1. 箏を専用ケースから取り出す時は、水平な場所で行いましょう。
箏を取り出す時は、必ず水平な場所で行いましょう。
箏を壁に立てかけた状態で取り出すと、箏が倒れるおそれがあり、危険です。
絶対にしないでください。



2. 箏は、周りに注意して、両手で運搬するようにしましょう。
箏は大きな楽器です。
片手で持ち上げたり、周りを見ずに取り扱ったりすると、怪我や事故につながる可能性があります。
周囲に注意を払うようにしてください。
運搬で階段を利用する時は、頭上だけでなく、足元にも注意しましょう。



3. 箏は、柱を外してから保管するようにしましょう。
柱をつけたまま保管すると、絃が伸びて絃のメンテナンスが早まる可能性や、柱が倒れて甲が破損する可能性があります。
演奏後は、必ず柱を外し、手ぬぐいで甲を保護しましょう。



4. 箏を保管する時には、向きを気にするようにしましょう。
箏を保管する時には、向きが決まっています。
必ず、向きを守って保管するようにしてください。
間違った向きで保管すると、破損する可能性があるため、注意しましょう。



5. ストープの近くで演奏しないでください。
ストーブの近くで演奏すると、箏に直接、熱風が当たる可能性があり、箏が変形するおそれがあります。
寒い時にストーブを使用する場合、箏から十分に離して使用しましょう。

箏のお手入れ・保管方法に関するその他の注意事項



1. 箏を数か月間演奏しない場合は、空気に触れさせましょう。

数か月間演奏しない場合は、専用ケースから箏を取り出し、1時間程度、直射日光が当たらない室内で、自然な空気に箏に触れさせるようにしてください。
最適な保管環境については、楽器店に聞きましょう。



2. 箏に結露が生じた時の対処方法

保管場所と演奏場所の寒暖差が激しく、箏の表面に結露が生じた時は、箏を専用ケースに戻し、結露がなくなるまで、室温に慣れさせましょう。
この時、結露を乾いた手ぬぐいで拭きとってはけません。



3. 不具合が発生しても、自分たちで補修や修理は、絶対にしないでください。

本資料に記載されている方法で、お手入れや保管をしても、箏に傷がついたり、付属品が破損してしまう可能性があります。
そうした破損を自分たちで補修や修理をすると、場合によっては、更なる事故等につながるおそれがあります。
不具合が見つかったら、まずは楽器店に問い合わせましょう。

動画と本資料を使って、正しい箏のお手入れ・保管方法を身につけ、より長い期間、演奏を楽しめるよう、日々の取り扱いを怠らないよう、心がけてください。

お手入れ・保管方法の動画はこちらから ▶▶▶

